

【幼稚園教員に求められていること】

「幼稚園教員の資質向上について - 自ら学ぶ幼稚園教員のために - 」
(幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告 平成14年6月24日答申)

幼稚園を取り巻く環境の変化

- (1) **地域社会や家庭の急速な変化**
 - ・ 少子化
 - ・ 核家族化
 - ・ 都市化
 - ・ 国際化
 - ・ 情報化
- (2) **幼稚園に対するニーズの多様化**
 - ・ 子ども同士の遊ぶ機会の提供 子どもの社会性を育てる。
 - ・ 早期教育への課題
 - ・ 子育て支援センター（子育て不安の解消）
 - ・ 幼児教育のセンター

幼稚園教員に求められる専門性

幼稚園教員としての資質

- (1) **幼児理解・総合的に指導する力**

幼児は、自発的な活動である遊びを通じて、心身全体を働かせ、様々なことを経験しつつ、理解力、言語表現能力、運動能力、思考力、社会性、道徳性などの多様な能力や性質について、相互に関連させながら総合的な発達を遂げる。
「幼児の発達段階や発達過程を、その内面から理解し、生活の中で幼児が示す発見の喜びや達成感を共感をもって受け入れる」という幼児理解が基本である。
幼児の総合的な発達を促すため、主体性を引き出しつつ、遊びを通じて総合的に指導する力が、専門性として求められており、幼児期の特性に応じて指導する力として重要である。
- (2) **具体的に保育を構想する力、実践力**

幼児理解に基づき総合的に指導する力を発揮するためには、一人一人の発達段階と個別の状況に応じて、計画的に、多様な生活体験、自然体験の機会や異年齢交流、交流保育など、具体的に保育を構想し、実践する力が必要である。
教員自身の豊かな体験を背景として展開されることが多く、教員自身が生活体験や自然体験、社会奉仕体験など、自らの豊かな経験を積極的に摘む必要がある。
- (3) **得意分野の育成、教員集団の一員としての協働性**

得意分野は、知識や技術に立脚した活動や内容にとどまらず、幼児の興味を引き出し、幼児の幼児が充実感を味わえるような豊かな活動につながるのものである。
個性あふれる教員同士のコミュニケーションを図りつつ、教員集団の一員として協働関係を構築して、園全体として教育活動を展開していくことが求められている。
- (4) **特別な教育的配慮を要する幼児に対応する力**

3歳児、満3歳児、障害のある幼児、外国籍の幼児等への配慮と対応は、子どもとその保護者とともに生活していくという姿勢が必要である。
- (5) **小学校や保育所との連携を推進する力**

小学校と連携し、幼児期から児童期への移行を円滑にし、一貫した流れを作るため、共通の子ども理解をもち、教員間、幼児・児童館、保護者間の交流を進めるための実行力や企画力などが教員に求められる。
保育所と連携し、相互交流、合同研修などを踏まえた能力の発揮が求められる。
- (6) **保護者及び地域社会との関係を構築する力**

幼稚園は、地域の幼児教育のセンターとしての機能を発揮し、未就園児の親子登園、子育て相談、園開放、子育て情報の提供など子育て支援活動を展開することが求められている。園長や教員は、カウンセリングマインドをもち、保護者たちの悩みを受け

止め、円滑にコミュニケーションをとることが求められている。

開かれた幼稚園として、園長等は、情報収集及び発信能力及び対外交渉力を発揮し、幼稚園が地域に貢献するとともに地域の様々な力を幼稚園に導入できるような関係を構築することが求められている。

(7) 園長など管理職が発揮するリーダーシップ

教職員組織のリーダー

各教員が資質の向上に取り組むことを支援する責任者であり、アドバイザー

危機管理についての責任者

自己管理と自らの資質向上

(8) 人権に対する理解

幼児が集団生活を初めて経験する場としての幼稚園において、教員は、いかなる差別や偏見も許さないという、人権についての正確な理解に基づき、幼児が、互いに尊重し、社会の基本的なルールの存在に気付き、それに従って行動ができるような素地を身に付けるように指導する力が求められている。

研修による資質向上

専門性を高める研修

自己課題を解決・達成する研修

役割意識を高める研修

視野を広げる研修

幼稚園設置基準（平成14年4月1日から施行）

幼稚園の自己点検・自己評価

教育活動その他の学校運営の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するよう努める。

点検・評価の具体的項目や方法については、地域の実情に応じた工夫が期待される。

保護者や地域住民に評価に参加してもらう。

保護者等に対して積極的に情報を提供することが義務付けられた。

情報発信の方法にも工夫

幼稚園に求められている役割

(1) 子どもにとって、豊かな体験のできる幼稚園

ア 自然に触れ、伸び伸びと体を思い切り動かして遊ぶ機会を

イ 個の遊びから共同で行う遊びも

ウ 安全管理・危機管理

エ 保育所・小学校との連携・接続

(2) 保護者にとって、様々な学びと自己発揮の場となる幼稚園

ア 保護者の積極的な保育参加を

イ 「食育」の大切さを家庭に

ウ 保護者に社会力を（親と子の育ちの場）

(3) 地域コミュニティの場としての開かれた幼稚園

ア 親と子の学びの場

イ 情報公開

ウ 児童虐待の通告

（配布資料「こんなサインありませんか？ - 児童虐待防止に向けて - 」参照）